

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 植竹 宏之
東京医科歯科大学大学院・医学部医学科・総合外科学分野 教授

研究要旨 研究要旨 インターネットなどを用いた情報配信事業については、情報ツール、コンテンツ及び運営方針を決定し、分担執筆者を選定した。出版事業に関しては、書籍名、内容、項目を決定し、出版社、分担執筆者を選定した。一般の人を対象とした、ウェブサイト「がんゲノムネット」および書籍「よくわかるがんゲノム医療」の制作を企画し、その掲載内容について検討をおこなった。

A. 研究目的

本研究は、3学会合同WGを基盤とし、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを計画する。各学会に所属する専門家による現状の解説や将来像、現時点では達成できていないことなど負の側面も含めて正確な情報を提供する。情報ツールとしては、3学会のホームページだけではなく、患者会のホームページ、NPOがん関連ネット、メディア企業、医学系出版社、大手のインターネットサイトを用いる。各学会の学術集会、市民公開講座、大学のがんプロフェッショナル講座、国立がん研究センター、患者会、他医療従事者向け教育事業などと連携する。研究期間内に、国民を対象とした「がんゲノムネット」のコンテンツ・体制を整えることを目標とする。

B. 研究方法

インターネットなどを用いた情報配信事業については、情報ツール、コンテンツ及び運営方針（記事更新のタイミングなど）を決定し、分担執筆者を選定する。出版事業に関しては、書籍名、内容、項目を決定し、出版社、分担執筆者を選定する。事業全般において、分担研究者とその研究班などから、がん患者、患者家族に対するコミュニケーション方法について情報収集し、情報発信に役立てる。

1. 会議（がんゲノムネットワークワーキンググループ）の開催
2. 各情報配信業者との打ち合わせ
3. 書籍出版
4. 市民向けのゲノム講習会の開催
5. 3学会の学術集会内でのシンポジウム、教育セミナー、市民公開講座の開催

C. 研究結果

収集した情報を「がんゲノムネット」の形でとりまとめている段階である。当院の医師会主催の市民公開講座で「がんと遺伝子～がんゲノム医療と？～」を行い（2018年10月5日）、200人以上の参加があった。

D. 考察

遺伝子パネルが実装される医療機関が増え、それに伴い当初喧伝されたほど「ゲノム医療」が万能ではないことが徐々に浸透しつつある。一方で、遺伝子パネルによって、実際に次の治療に結びついた、かつ治療効果が認められた症例も少なからず存在している。「遺伝子パネル検査」が保険診療となることが目前となっており、いよいよ研究ベースから実臨床にゲノム医療の場が移ろうとしている。真にゲノム医療の恩恵に浴する症例を抽出するためにも、医療者と患者、患者家族、一般市民とがゲノム医療についての正確な知識を共有することが重要である。この目的にインターネットは最も適したツールであると考えられる

E. 結論

現在コンテンツを作成中であり、完成次第web上に公開し、医療従事者ならびに患者、患者家族、一般市民からのフィードバックを得る。その内容を速やかに反映させコンテンツの継続的な充実を図る。インターネットを用いたこの方法は、医療者と患者、患者家族、一般市民とがゲノム医療についての正確な知識を共有するのに最も適している。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし